

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は正味財産増減額として処理）を採用している。

また会計処理は洗替処理でなく切放処理としている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	43,874,550	0	0	43,874,550
投資有価証券	915,788,000	0	19,198,000	896,590,000
小 計	959,662,550	-	19,198,000	940,464,550
特定資産				
貸与貸付金	22,769,328		1,973,328	20,796,000
奨学事業積立資金	125,085,904	-	3,035,277	122,050,627
小 計	147,855,232	-	5,008,605	142,846,627
合 計	1,107,517,782	0	24,206,605	1,083,311,177

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	43,874,550	(43,874,550)		
投資有価証券	896,590,000	(896,590,000)		
小 計	940,464,550	(940,464,550)		
特定資産				
貸与貸付金	20,796,000	(20,796,000)		
奨学事業積立資金	122,050,627	(122,050,627)		
小 計	142,846,627	(142,846,627)		
合 計	1,083,311,177	(1,083,311,177)		

4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
使途の制約の解除による振替額	20,828,981
合 計	20,828,981

5. 正味財産増減計算書に計上されている受取寄付金振替額の内訳

(単位：円)

区 分	当年度	前年度
当年度受取寄付金額振替額	3,495,000	4,780,000
過年度受取寄付金額振替額(特定資産取崩額)	4,766,605	3,249,018
合 計	8,261,605	8,029,018

当年度の受取寄付金を振り替えて不足する分は、過年度に寄付金として受け取り、特定資産として運用していた一部を取崩し、財源としている。